

## 平成 30 年度 第 4 回南区まちづくり懇話会 会議録

1. 日時          平成 31 年 1 月 29 日（火）    午後 3 時から午後 4 時半まで
2. 場所          熊本市    城南まちづくりセンター    3 階会議室
3. (1) 出席委員  
    前出委員、野口委員、小山委員、平井委員、松浦委員、正木委員、岡委員  
    （副会長）、芥川委員、宮澤委員、大澤委員、奥田委員、柴田委員（会長）、  
    大村委員
- (2) 出席職員  
        南区長、保健福祉部長、総務企画課課長、飽田まちづくりセンター所長、  
        天明まちづくりセンター所長、幸田まちづくりセンター所長、南部まち  
        づくりセンター所長、富合まちづくりセンター所長、城南まちづくりセ  
        ンター所長、城南交流室長、保健子ども課長、福祉課長、南農業振興課  
        課長
4. 配布資料  
    (1) 一会議次第  
    (2) 一委員名簿  
    (3) 一資料 1「第 3 期南区まちづくり懇話会 報告書（案）」  
    (4) 一資料 2「平成 31 年度南区まちづくり推進経費要求概要一覧」  
    (5) 一資料 3「平成 31 年度南区復興支援自治推進経費要求概要一覧」
5. 次    第  
    (1) 開会  
    (2) 議事  
        ①南区のまちづくりに関する報告のまとめ方について  
        ②平成 31 年度予算要求の概要について  
    (3) その他

## 6. 議事録

- 会長                    まず、事務局から議題1について説明してほしい。
- 事務局                （事務局説明）
- 会長                    この報告書というのが、昨年度と今年度、第3期懇話会で話してきたことで、これを区長に提出するということになる。  
この報告書案に対して、皆様からご意見を頂戴したい。
- 正木委員              私の場合は、農漁業の担当委員として参加しているが、南区の農漁業について、一般の方が理解されていない情報も多いと思う。そこは、少しずつ広げていきたい。南区の職務の一つ、目標の一つなると思う。  
クッキング大会、マルシェ、農漁業体験など「体験すること」を重視したような提案があればいいと思う。  
他に、農業ではないが、文化交流について、南区にはいろんなものがあって、自分たち地元の者には何てことないものが、地元以外の方にとっては魅力になるものがある。  
さきほど、説明があったように、小中学校とかいろんなところで南区全体で広めていくべき。  
委員になって、南区内の視察をしてみて、知らない文化財や神社などがいっぱいあったので、びっくりした。
- 会長                    昨年度、今年度と南区内の視察をして、皆さん同じように感じられたのではないかと思います。
- 大村委員              目標4と5で、平成31年度に幸田地域で世代間交流を予定しているということだが、どういったことをするのか。
- 事務局                平成31年度南区まちづくり推進事業で、幸田まちづくりセンターが「世代間交流促進事業」を実施する。実は、今年度に幸田まちづくりセンターがささえりあと連携して、幸田地域の元気な高齢者を紹介する動画を作成した。この動画作成に関わっていただいた高齢者の方を講師に迎えて、農業体験や昔遊び体験を実施して、世代間交流を実施する。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 宮澤委員 | <p>目標 5『地域ぐるみで子どもを育てる』について質問したい。実は、私は主任児童委員の全国の検討協議会で、熊本市南区の取り組みを発表してきた。南区では、昨年度から「南区子育てサークル交流会」を開催している。これは、乳幼児の生後2週以上の子どもの対象とした子育てサークルを集めて、南区全体の交流会を行うという取り組み。こういった取り組みは、熊本市でもないし、全国でも珍しい、新しい取り組みである。大事なのは、地域として子育て家庭を応援すること。行政やいろんな地域団体がつながって、子育て世帯を応援することが大事なので、これを続けていこうと思っている。せっかく、南区は子育て世帯が多いので、子育て世帯を応援するような取り組みがあってほしい。</p> |
| 会長   | <p>非常に重要なところである。よくよく見ると、基本目標は『地域ぐるみで子どもを育てるまち』だが、高齢者主体の取り組みが多く、子育てのキーワードが抜けている。<br/>その交流会というのは、具体的にどんな取り組みなのか。</p>                                                                                                                                                                                                                  |
| 宮澤委員 | <p>具体的には、乳幼児のミニ運動会。0～1歳と2～3歳で分けて運動会を開催した。100組近い親子の方々が集まって、盛り上がった。くまモンも来てくれて、今までにない取り組みだった。<br/>お母さん同士の交流にもつながり、子どもたちは広い体育館の中で走ったりして、とても楽しんでもらえた。子育て世帯が孤立しないように「お母さん同士を繋げる」「地域と繋げる」ということを目標にして開催した。</p>                                                                                                                              |
| 会長   | <p>そこは、とても重要な点で、新しく書かなくても今きっちり取り組んでいる部分だと思う。<br/>実は、私も子どもが6歳で、熊本に来た時はまだ0歳だったが、子育て支援センターや子育てサークルには随分お世話になった。ちゃんと取り組んでいることも反映させていくということも改めて重要と思った。</p>                                                                                                                                                                                |
| 野口委員 | <p>基本目標4『みんなが健康で元気なまち』で、高齢者と子どもだけの交流の場に限定されているので、赤ちゃんからお年寄</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |

りまでの交流の場を作るという風に幅広く書いてほしい。

会長

おっしゃる通りだと思う。

次に、私から質問したい。基本目標 6 の地域版ハザードマップは、自治会ごとに作成されていて、南区はかなり進んでいると聞いた。作成率 6 割ということだが、皆さんの自治会では作成された後はどうなっているか。作成して終わりになっていないか。

これを何かうまいこと使えないかなって思ったが、いかがか。

前出委員

飽田地域だが、自治会で作ったのは作ったが、その後の議論はないので、それをまた見直せたらいいと思う。

また、作成率 6 割を高めるとどうだろうか。皆さんも「うちは作っている」「うちは作っていない」となって、ある程度危ないところを再度見直すのではないか。

会長

報告書にも書いてある通り、地震の前に作ったところが結構あったりして、見直しは必要である。まだ作っていない 4 割のところは作っていただくことも必要である。作ってしまった 6 割のところは「工事したからどうしようか」とか、いろんな取り組みがたくさんあるかと思う。一番下に「ウォーキングイベントを開催する」ということが出ているが、方法とか何か思いついたことはないか。

大村委員

地域版ハザードマップを紙で作成するのはいいが、災害があったときは携帯を持って逃げるので、ネットで見れるようにできないか。

事務局

地域版ハザードマップは、熊本市のホームページで、PDF でダウンロードできるようになっている。しかし、今のご意見から皆様にきちんと伝わっていないことが分かったので、周知の方法を検討したい。

正木委員

ホームページは何回も見るが、見にくい。もう少し、ホームページの作成の仕方を考えてほしい。

|      |                                                                                                                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 松浦委員 | おそらく、今から毎年防災訓練があると思う。4月の第3土曜日に、固定されるという話を聞いたが、この訓練は校区単位ではなく、自治会単位にすべき。その住民の方が訓練で避難所の確認をすると、頭の中に入ってくると思う。住民の方に毎年意識付けをやっていくことによって、避難通路を通ってみたり、「どの通路は安全だ」という確認が出来るのではないかなと思う。そのあたりのことを入れてほしい。          |
| 会長   | それはとても重要なところ。地域版ハザードマップを作った単位と避難訓練の単位が違うというのは確かに問題。実際に逃げるときは、結局自治会単位になると思う。                                                                                                                         |
| 松浦委員 | 地域版ハザードマップは、見直しが必要になってきたが、その印刷費や費用を熊本市にお願いしたい。                                                                                                                                                      |
| 事務局  | 現在、地域版ハザードマップの予算は危機管理防災総室で管理しているが、見直しの費用についても検討しているところ。                                                                                                                                             |
| 大澤委員 | 世代間交流というような感じで「特育三世代」という子ども会、婦人会、老人会で支え合えるようなイベントを開催することによって、子育てと防犯のつながりができると思う。<br>今は非行とかいろいろな問題があるが、「誰かに見守られている」という意識があると、非行には手が出ないと思う。「自分はちゃんとせんといかん」というような意識も出てくると思うので、徳育三世代を巻き込んだイベントを開催してほしい。 |
| 会長   | 南区は、三世代でお住まいの家庭も多いと思うが、核家族のいわゆる子育て世帯も増えていると思う。今のご意見は基本目標5と6に関係してくるので、重要なポイントだと思う。                                                                                                                   |
| 芥川委員 | 民生委員の立場から言うと、子育て応援の中に乳幼児とか小さい子どもが入っていない。一番大事なのは生まれてから保育園に行くまでの乳幼児の見守りだと思っている。校区では毎月1回「ひよこクラブ」を開催しているが、近頃は双子が多い。上の子どもがいて双子が出来たときは3人になる。民生委員として、見守りの中で弱者というのは高齢者だけでなく、                                |

おなかの中にいる赤ちゃんも入る。

そして、地域版ハザードマップは、校区の自治会が防災企画と連携して今また地域版ハザードマップ作りからやり直しているが、そのいざという時の下支えとなるように、民生委員が高齢者の要支援者と乳幼児と小学生の子どもが家庭に3人いるところを書き出して、自分の町内の把握をしておく必要がある。地域版ハザードマップと並行的に民生委員が手を結ぶということ。

民生委員の活動費は限られているので、ひよこクラブの案内状を行政にお願いするが、断られ続けている。

今も民生委員だけが出資を募って提案をして回ったり、印刷物とかいろいろ作っているので、これから、行政にも本格的に手伝ってほしい。

会長

重要なお指摘だった。地域版ハザードマップと要支援者の把握を一緒にやるということ。そのあたりを書き込めたらいいと思う。

小山委員

野口町では、来年度子ども会を解散すると言われている。このままいけば自治会まで解散するのではないかという不安と危機感に襲われている。野口町は、若い世代がいっぱい入ってきて、子どもも百何人いるが、子ども会加入率が18%しかないということで、解散することになったという報告が自治会に届いた。

そして、私は自治会長じゃないが、アパートの方たちから「自治会の加入について、管理者が市役所に問い合わせをしたら、別に入らなくてもいい」という説明を受けた。どうしても自治会に入らないといけないのか」という話があった。

熊本市が自治会に入らなくていいという説明をするなんて、地域としては、落胆する。熊本市はきちんと指導してほしい。

会長

他にご意見はないか。

奥田委員

これから、商工会として関われることがあれば、支援をさせていただきたいと思う。

会長                    それでは、他にはないようなので、事務局にはこれまでのご意見を極力反映した報告書を作成してほしい。  
それでは、議事 2 について、事務局から説明をお願いする。

事務局                （事務局説明）

会長                    これについては、予算の大枠は決まっているので、具体的な事業のやり方等についてのご意見をいただければと思う。

松浦委員              気になることがある。1 つ目は、小中高の通学路。城南町から熊本農業高校の方に通学する生徒が草ボーボーで通れないと言っている。安全の面で、行政はどういう風に考えているのか。  
2 つ目は、木原から城南町に電動車イスで行かれる方が 38 号線の道路が草ボーボーで通れないと言っている。私は、年 5 回か 6 回草を刈るが、すごい恰好をしてやっている。要は、交通量が激しく危ない。そのあたりに対する対策も全然ない。  
「住みよいまちづくり、住みよいまちづくり」と言うが、住みにくいまちづくりじゃないかと思っている。  
塚原でもカートを利用される方がいるが、交通量が多くて危ない。1 人か 2 人かもしれないが、復興だけに力を入れるよりも、自分で努力して、自力で生活される方にもう少し、目を向けてもらいたい。  
1800 万円の予算を削って、道路の安全対策に回してほしい。  
草刈りも自治会に頼んでやればいい。私ひとりでもやっているのだからできると思う。

総務企画課長        今のご意見は、以前から継続的にいただいていて、担当の土木部門にも課題は投入しているところだが、全体的な予算の割り振りの中で決めているので、早急に回数を増やすというのはちょっと難しいと考えている。  
また、自治会に草刈りを委託するということについてもなかなか良い仕組みが作り上げられないということで、検討中である。

松浦委員              塚原古墳公園も、年に 2 回刈っている。私が始めたが、子ど

もが遊ぶところなので、3回の草刈りも自治会で引き受けた。5回分で400万円近くかかる。できないことはない。やる気があるかないかだけの話。私が言いたいのは、それだけ。行政のが真剣に取り組んでくれるようにけしかけたい。行政が自分の任期中に終わってしまえばいいという考えでいるのが腹立たしい。皆さんもそう思っていると思う。行政は、一生懸命「安全・安心」と言うが、全然対策を取らない。私は心が痛い。

会長 中高生の通学路の確保は本当に基本的な部分にあたる。行政の言い分もわかるが、基本的な部分をどうするのかいうことは非常に大きな問題である。

正木委員 今のご意見はよくわかる。  
行政に言いたいのは、予算の振り分けができていない。例えば業者に頼んだら1回分でも、地域に頼むと10回できる。地域に年度で頼めばいい。たとえ10回分の費用はなくても、足りない分は全部ただでできる。

会長 そう言っていただける地元の方がいらっしゃるのには南区にとってとても幸せなことだと思う。  
行政としては、一番やりにくいことかもしれないが、検討してほしい。

正木委員 ここにあるのは、私たちが2年間話し合ってきた反応というか付与のようなもの。  
連携、連携と取り上げられているが、例えば南区でのフェアが挙がってこない。個々は挙がっているが、それはどうなのだろうか。

事務局 今年度のご提案ということでのご意見はいただいていたが、予算総額の問題もあり、平成31年度は基本目標1と5の連携ということで「美味しいものの収穫体験と料理教室」などを事業として挙げている。

正木委員 予算がないとかじゃなくて、連携という形で、先々のこの連携



という形でやっていきたいとかいう項目があってもいいではないか。一番上に「連携」とあるのに、「誰々とここで連携した」って書かれてない。

会長

青字の分で「基本目標 1×5」という部分が連携という意味合いになる。単独の基本目標のために実施している事業もあるが、基本目標を連携した取り組みもある。このあたりが南区らしいところ。

ただ、もう一歩あってもいいかなというご意見だと思う。

正木委員

予算があるとか事業があるとかじゃなくて、先々にはこういう形で持っていくっていう報告をちゃんと載せてほしい。でないと、せっかく話し合ったことが全然表に出てこなくなる。それはもったいない。

大村委員

「南区のPRグッズ作成経費」について、金額が増額になっているが、PRグッズは必要なのだろうか。私たちは、ボールペンやバッグをいただいたが、どこかで配布したりなどして毎年在庫はなくなっているのだろうか。

事務局

例えば、南区まちづくり推進経費で実施するイベントで配布したり、地域で開催されるイベントに提供したりと参加者の皆様に配布することで南区のシンボルマークやめざす区の姿をPRするという形で使っている。

大村委員

PRになっているかもしれないが、ホームページがあまり充実していないので、そのあたりにいかしてほしい。

松浦委員

『健康と福祉のおたがいさまのまちづくり事業』の中に百歳体操のことを入れてほしい。というのは、百歳体操立ち上げのときは支援金が出ない。立ち上げた後に支援金が出るので、非常に立ち上げが難しい。なので、その仕組みを変えて、百歳体操の推進を進めてほしい。

百歳体操は健康維持のために全国的に推進されている。そして熊本市も推進しているが、なかなか広がらない。広がらないのは、支援の仕方がおかしいからだと思う。

ここで言うことではないが、健康というキーワードがあったので、考え方をちょっと変えてもらえると非常に助かる。  
今は、まず立ち上げてから支援金が交付されるようになっているが、先に支援金を交付して、地域が立ち上げるようになるともっと広まっていくと思う。

福祉課長 百歳体操については、組織づくりのための支援を行っているが、専門職の派遣と費用の助成があり、費用の 1/2 を助成している。実際かかった経費を助成するため、一旦立て替えていただくことになる。

前出委員 『まちづくりアンケート調査実施事業』は、どういう内容か。  
2～3 年前にアンケートに協力したが、同じようなものなのか。

事務局 3 年間前にまちづくりについてのアンケート調査を行ったが、現在、地域の担い手不足が一番大きな課題になっているので、平成 31 年度は、働く世代を対象として地域活動についての意識調査を行う予定である。

会長 前回のアンケートとは対象と内容が違うということで、今後  
に活かしていく調査ということだと思う。  
あまり、ご意見は出なかったが、31～32 年度限定で復興のための予算が創設されるので、有効に活用してほしいと思う。  
復興目的に限られるが、自治会等を対象とした助成事業もあるので、地域の取り組みに活用していただきたい。

区長 本日も貴重なご意見をいただき、感謝している。  
本年度は「連携」をキーワードとして意見交換をしていただいたが、その中のご意見をもとにまちづくり推進経費を組み立てた。  
皆様のお話を伺っていると、まちづくり推進事業に反映することはできないが、通常の業務の中で解決できる部分もあることがわかった。通常業務の中でも連携を深めていきたい。  
今後ともよろしく願いたい。